

「普代村のホタル余話」と題して

村郷土史編纂委員の熊谷文弥さん（七三、鳥居出身、東京都在住）から太平洋戦争で特攻隊員《特別攻撃隊》として太田吉五郎さん（故、太田名部）が敵艦隊に突入、十九歳の若さで戦死したことについて詳細を調査、「広報ふだい」八月号（平成十三年）に投稿してくださいましたが、再び「広報ふだい」に「普代村のホタル余話」と題して投稿いただきましたので紹介します。（原文のまま）

筆者は、今次大戦において特攻隊となり十九歳の若さで戦死した普代村太田名部地区出身故太田吉五郎海軍飛行曹長について、ご協力者から寄せられた資料を整理し、「普代村のホタル」という題名で「広報ふだい」平成十三年八月号に投稿した。

投稿の動機は、「広報ふだい」平成十二年十二月号の「神風特別攻撃隊」という写真入りの記事である。この記事に感動した私は、太田吉五郎さんについての詳細を知り郷里の方々にもお知らせしたく思い防衛庁戦史部に電話したり、同庁文官であった知人に依頼し

たりしたがうまくいかなかった。大学病院勤務時代と異なり、市井の一開業医となっている私には調査する時間余裕がない。純粋な動機には協力者という神助があった。

私は協力者から次々と送られる資料を整理し、できるだけ冷静に、事実のみを淡々と記述し「広報ふだい」を通じ村民の皆さまにお届けした。「広報」には「読みもの」があってもよいと思いつたたび投稿した。

今回の「普代村のホタル余話」は投稿後に私の感動があるため、文章に私事が入ったり、いささか感情に流されたりする点はあらかじめお許しを願ってほしい。

特攻隊員故太田吉五郎さん

は、普代小学校で私の三年先輩である。筆者は、普代小学校時代を太田名部地区の親類から通学することが多かったため、この太田吉五郎さんをよく知っていた。

小学校通学の朝はみんな一緒に登校し、各地区には高学年の

める会社の専務取締役であり社長了解のもとに、防衛庁戦史部に通いつめたのである。

佐々木治男氏は平成十三年八月旧盆で郷里普代村に帰省中の熊谷儀七と、社長実兄で親交のある熊谷義重を頼って普代村を訪れ、故太田吉五郎飛行兵曹長の生家太田名部の屋号「ありや」さんを訪問、仏前に詣でた。

例年通り墓参りに帰省した筆者は平成十三年八月十三日朝、



お盆で帰省し、実家（鳥居）でくつろぐ熊谷さん（東京都在住）

普代村のある商店に買い物に立ち寄ったところ、その店の奥さんは私を知っていたとみえて「ありやさんは長生きをなさいましたか男の子どもさんが戦死なされました。先生の記事を吉五郎さんのお父さんにみせてあげたかった」といって眼に涙を

ためておられた。私も涙が出そうになり慌てて顔を伏せ「そういつていただければ私も嬉しいです」と言っ

て頭を下げて店を離れた。翌日の昼、役場広報係のKさんが私を尋ねてきた。「太田名部に取材に行ったら、広報で太田吉五郎さんの記事を読んだ方に泣かれました」と私に話してくれました。「お盆に何よりの供養

でしたか」と言ってくれた知人もいたし「戦死というだけで状況のわからない人もいるだろうね。歳をとって仕事をやめたらご遺族のためにそういう調査をやるうかな」という兄弟もいた。

本年旧盆にあたり、私の拙い投稿が普代村ただ一人の特攻隊員、十九歳で敵艦に体あたりし散華した普代小学校の先輩、故太田吉五郎海軍飛行兵曹長の霊に対して少しでも供養になったとすれば私の喜びであり、私の「志」に協力してくれた佐々木治男氏、実弟二人に感謝し筆を擱く。合掌。

普代村郷土史編纂委員

熊谷文弥